

国際理解教育全体計画

【今年度の重点目標】 自らとりくむ みんなでつくる

- I 温かな人間関係の構築と個に応じた支援で、自分を大切にし、他者を大切にする気持ち（自尊感情）を育てます。
- II 多様な人・モノ・コトとのかかわりを深める豊かな体験の場を設定します。
- III 情報発信や意見交換、教育相談の機会を捉え、家庭や地域、関係者と協働して教育活動を進めます。

国際理解教育の目標

外国語学習を通して、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

低学年【親しむ】	中学年【かかわりの素地】	高学年【かかわりの基礎】
<ul style="list-style-type: none">・身近な外国語に興味・関心をもち、外国語に親しむ。	<ul style="list-style-type: none">・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。・外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。・外国語を通して、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none">・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによるコミュニケーション場面で活用できる基礎的な技能を身に付ける。・自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。・他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

達成のための具体的方策

- 1 5, 6年生は外国語の時間を全70時間(ALTとのTT指導63・64時間), 3, 4年生は外国語活動の時間を全35時間(ALTとのTT指導32時間), 1, 2年生は年間5時間(ALTとの活動3時間)行う。
- 2 日本語は必要最小限にし、授業の中心は英語で行う。指示も説明も英語で行うが、児童の反応を見ながら、ALTの流暢な英語の指示・説明 → ゆっくりな英語の指示・説明 → ジェスチャーを加えてゆっくりな英語の指示・説明 → HRTによる日本語を交えた指示・説明と行っていくようにする。
- 3 コミュニケーション活動場面で“本時に慣れ親しませたい表現”を使って交流ができるようにするために、変化のある繰り返しを活動に盛り込む。
- 4 授業の終末では、“振り返りカード”で活動の振り返りを行う。
- 5 異文化の行事や外国語活動時に制作した作品などを、廊下や教室の壁面に掲示して紹介する。

留意点

- ・ALTとのTT指導が予定されている場合には、打ち合わせ時間を確保し、学習内容や活動、役割分担などを確かめておく。
- ・簡単な英語での受け答え、拍手、うなずき等、友達の発表や教師の投げかけに対し、英語で進んで反応できるようにクラスルーム・イングリッシュを進んで活用し、自然に応答できるような雰囲気作りに心がける。